
怪盗快音がある事を知った時間(とき)

たけま

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

怪盗快音がある事を知った時間とき

【コード】

N8832D

【作者名】

たけま

【あらすじ】

本編は続編です。前回の初めての出会いをお読み下さい。それでは私の妄想の世界によろこそ

(前書き)

妄想の世界によつて――

(怪盗キッドと怪盗快音の出会いをお読み下さい。)

あのあと、宝石を鑑定したもののパンドラではなかった。

でも、ひとつだけ教えてあげる、私は組織のあのおかたを知ってる、あのおかたも私の事を知ってる。

でも、その時がくるまでお互い黙っている事に、、だけど、まだひとつ誰にも言えない秘密がある、それは、パンドラの本当のありが、不老不死の薬にするためにはどうすればよいか等ある人から聞いた(初代怪盗キッド)だがそれは大きな代償が必要になること、でも必要な時にしか使ってはならない。だから、怪盗快音として架空のパンドラを追い求めている。ちなみに私は今、キッドがメモリーズエッグを盗むために行った大阪にいる、キッドには言つて無いけど私はキッドの正体を知っている(初代怪盗キッドに教えて貰った。)

キッドに取り付けた、盗聴機からキッドのギザな台詞が聞こえる

「レーデイスアンドジェントルマン…さあ…ショウの始まりだ…。」

と言うと大阪城から花火が上がった、あーあなるほど次は変電所が爆発する、なんか嫌な胸騒ぎがする、一応ハングライダーでキッドの後を追いかける、キッドがあるビルに入った、あ、探偵君と平次君だキッド追っかけてる…てっよそ見しちゃ駄目だって、ほらー言わんこちゃんない引かれたー嫌な予感は何れ？嫌違ってもっと続くキッドを追っているとなるとある人がくキッドを狙う私はハングライダーを急降下しキッドを庇う足に命中したが飛べる、キッドには気絶してもらい鳩とモノクルそしてメモリーズエッグを置いてキッドのおじいちゃん澤井さんに連絡しホテルに連れて行く、私は香凜として快斗の見舞いに行った

「また、工藤新一に間違われてファンに襲われるところに私が来たこと感謝してよね。」

「ああ、サンキュ」

「射っ」

「どうした？」澤井さんが継いだ

「それがそのファンの中に…」

「さ、澤井さん…」

「拳銃を持っていて、快斗ぼっちゃまを新一さんと間違えて発砲して来られたのを香凛さんが庇ったのです。」

「見せる。」

「じいちゃん救急箱」

「は、はい」私の事は澤井さんのお陰でばれずに済んだ、その後快斗に軽い応急手当をしてもらい病院へ行った軽い怪我だったから痛み止めと包帯を巻くので終わった。さあ、船に乗り込むには…あーめんどくさいこの際櫻井香凛として行くキッドはあの人に化けて来るだろうし、うまいこと乗り込んだのはいいけど、この嫌な予感は何？そう殺人事件が起きた！殺されたのは、寒川^{さかわ}りゅういちさん25才指輪が盗まれていた。だが、指輪を盗むのなら首からはずせばいい（ネックレスとしてつけていた。）枕まで切裂くのはおかしい、と思い警部さんに言おうとするとコナン君に先を越されたさすが探偵君でも、確か…あの人はコナン君の正体を聞いたんだけど思いつけなくて…と思っていると村上さんのボールペンが部屋から発見された。でも、寒川さんは確か右目を打たれていたまさか、あの事件と関係が、、探偵君が部屋を出て行く念の為に蘭さんの後を追いかける。白鳥警部が蘭さんを止めるやっぱりキッドは白鳥警部に化けてたんだ。いろいろあつて（詳しく知りたい方は劇場版世紀末の魔術師を御覧下さい。）いろんな声色を使い追い詰めて行く（ちなみに周り火の海だから）そしていろんな場所に移動して弾を減らして行くらしいおつと此所で探偵君の登場

「僕一人だよ。これは蝶ネクタイ型変声機でつ言つてねいろんな人の声を出せるんだ。」

「悪いけど知られた以上貴方を生かして置く訳にはいかない」「その銃ワルサーPPKSだねマガジンに込められる弾は8つ寒川さん

と犬井さんおっちゃん蘭に1発ずつ此所で5発打ったからもう弾は残ってないよ」

「言い事教えてあげるあらかじめ銃に弾を装填した状態でマガジンを入れると9発になる。」ああまあ探偵君だからどうにかなるかな？

「じゃ…打てよ…弾が本当に残ってるんなら」

「バカなぼうや」と言って銃をコナン君の右目に眼鏡が弾を…は、跳ね返した！？次の瞬間コナン君がキック力増強シューズに手をかけるあ、やばいとトランプ銃を出すと違う方向から飛んできた白鳥警部がコナン君に駆け寄り逃げるように聞かせるだがコナン君は何かを見ている次の瞬間コナン君の真上が崩れた私はコナン君を抱き抱え城から逃げる後で落合った白鳥警部に新一さんに化けて蘭さんの所に行くのを頼んで私の意識は消えて行った、

「ん…」

「目が覚めたか？」とコナン君が言う

「お前の望み通り新一に化けて蘭さんの所に行ったぞ」

「ありがとう正体はばれて無いの？」

「ああ、キッドと快音のお陰でな」長い病院生活をおえ探偵と会ったのはそれから3日後だった

私達の戦いはまだまだ続く……………

(END)

(後書き)

感想やアドバイスを御待ちしてます。どしどしください。なりべく読者の皆様分かり安くかんたんな小説を書いて行きたいと思えます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8832d/>

怪盗快音がある事を知った時間(とき)

2011年10月4日20時24分発行